



上越市議会議員

# 宮崎朋子 議会通信

ミヤザキトモコ ギカイツウシン

- ◆この度の地震被害 ～見えてきた当市の課題～
- ◆12月議会 / 宮崎ともこの一般質問
- ◆地域の情報 ～どうなる？どうする？地域医療～
- ◆議員活動奮闘記 ～議員の本分、自問自答～

## Vol.15

発行月 2024年2月

所属

- 会派 創風
- 総務常任委員会
- 災害対策特別委員会委員長
- 議会運営委員会
- 防災士議員連盟
- 県道新井柿崎線整備促進議員連盟
- 保倉川放水路整備促進議員連盟
- 日韓親善上越市議会議員連盟
- 三和区国県道整備促進期成同盟会
- 桑曽根川・錦川改修促進期成同盟会
- 飯山・牧間県道昇格並びに整備促進期成同盟会

事務所

〒943-0231  
新潟県上越市三和区鴨井471  
携帯 090-3545-6087  
✉ q8s-3n8h@joetsu.ne.jp  
FAX 025-333-0424

大事な市政をしっかりと  
チェックします！

市内の災害、  
減災対策に  
奔走します！

市民のために  
変わる、進む  
市議会運営に  
つとめます！

発行者/上越市議会議員 宮崎朋子

表紙の色 「藤色」  
心身を癒すむらさきの色。

動く！しゃべる！動画チャンネル  
「B面ともこ」配信中です！

パソコン、携帯、スマホ  
からは是非ご覧ください。



YouTube B面ともこ

## 宮崎朋子 議員活動 奮闘記

～ 議員の本分、自問自答 ～

「市民の安心安全を！」などと何と軽々しく言っていたことか。  
発災以来、行政職員、町内会長や民生委員の皆様、消防、そしてライフ  
ライン事業者の皆様が尽力されている姿を目の当たりにし、  
私たち議員が成すべきことは何か？それは - 人々の声や  
現状から、ちゃんと感じることに - そして、次に繋がる市民  
のための政策を考えること。令和6年1月1日、あらためて  
覚悟と信念を持って、これからも議員の責務を全うしてまいります。



### 活動記録 (10/16～1/27)

- 市内行事 (三和区いきいきスポーツ大会/上越市教育クラブ学び愛フェスタ他)
- 市内団体参加 (新潟県中小起業家同友会女性支部/防災士会女性支部他13件)
- 市民要望の調査、立会等 (観光・二次交通・農業・自治・男女共同参画等)
- 調査研究 (キッズ仕事体験/高齢者のレクリエーション/子育て支援/春日山城跡の保存と整備/ふるさと納税/孤独・孤立対策推進法/震災被害状況等)
- 三市議会合同研修会 (12月21日)
- 所管事務調査 (第2次上越市総合公共交通計画後期再編計画/上越市公共施設総合管理計画/日帰り・温浴施設の適正配置の取組について)
- 視察研修 (オンライン議会について、堺市議会と金沢市議会へ/原子力災害対策について、女川原発と女川町役場、柏崎刈羽原発へ)
- 災害対策特別委員会 (視察研修/地震発災以降の課題共有)
- 議会通信発刊 (11月)
- 議会運営委員会 (3回) / 議運WG会議 (オンライン議会について)
- 臨時議会 (10月30日) (1月26日)
- 広報公聴委員会 (市民の意見を伺う会 (板倉区) 本会議 (12月1日) / 12月15日) ● 一般質問 (12月12日)
- 委員会傍聴 (広域観光特別委員会・農政建設/厚生/文教経済) ● 総務常任委員会 (12月7日)
- 地域協議会傍聴 (三和区)
- 個人議会報告 (26ヶ所) 他

● 3月議会の予定  
2月28日 (水) ～ 3月22日 (金)  
議会傍聴には是非お越しください！



初めての日本舞踊の体験  
(学び愛フェスタにて)

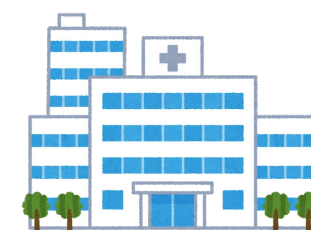
## 地域の情報

### どうなる？どうする？地域医療

新潟労災病院が2025年度中に閉院。というニュースは、  
地域や患者のみならず不安と戸惑いを与え、これまで議会  
においても現状と方向性について、丁寧な説明と寄り添いを  
求めています。今後、病院機能は、市内の6病院へ移さ  
れるとのことです。

国では、人口減少と高齢者人口のピーク(2040年頃)を見据え、10年ほど前からこの地  
域医療構想を推進しています。内容は、構想区域ごとに高度急性期、急性期、回復期、  
慢性期の4つの医療機能ごとの病床の必要量を推計し、医療機能を集中させることで、  
質の高い医療提供を実現しようとするもの。公の医療機関の果たすべき役割がより明確  
化されたとも言えます。

一方、新潟県には医師不足の課題があります。(25歳～49歳の医師が少ない)この対  
策には、県市あげて取り組み、少しずつ成果が出ています。また、県内の入院ニーズは  
今後、75歳以上の後期高齢者が約6割を占めると推測され、いわゆる回復期の需要が高  
まるとされています。これには地域包括ケアシステムの医療機関(医療と介護の複合的な  
ニーズを満たす)が必要です。地域医療再編は、患者と家族の命、地域環境、そして医  
療従事者の働き方改革などに関わります。上越地域の対象医療機関は8病院。私たち  
議員も、丁寧で質の高い地域医療の提供につながるよう注視してまいります。





## ■12月補正予算（一般会計） 歳入歳出補正額 3,052,096,000円 歳入歳出合計額 105,796,221,000円

### 補正内訳

- 1、小雨や日照りなどの被害に対する農業従事者支援（約2億3千万）
- 2、エネルギー物価高騰などに対する事業者支援（約3億7千万円）
- 3、エネルギー物価高騰などに対する非課税世帯支援（約11億7千万）
- 4、指定管理施設などへエネルギー価格高騰分を補填（約8300万）など

詳しくは、上越市HP及び、かけはしをご覧ください → <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

## 当市の能登半島地震被害について

### 1、市内被災状況

発災した1月1日には県の災害救助法が適用され、福祉避難所を含む230ヶ所が開設。停電は200戸。2日午前段階では道路障害18件、宅地内ガス漏れ16件、断水や漏水、水濁りなど125件が確認され復旧作業が行われました。

1月19日時点の建物被害は1277件、公共施設は115件と市内全域で確認されています。

### 2、市内各地の状況とお声

避難所がわからず、とにかく山の方へ逃げた。避難所も表に看板などが無く、入って良いのか迷った。帰省した家族や親族と一緒に精神的に安心だった。町内会館を開けるか否かは迷った。日頃の訓練もあり、周辺町内会と連携して避難できた。元旦で隣近所が居るかどうかわからなかった。灯笼やブロック塀、外壁などに被害があった。公民館でも耐震が十分で無いところもあるため今後の課題。避難者を受け入れた寺社もあった。避難所に行ったが寒くて居られなかった。道路の迂回路指示が欲しかった。など

### ● ● ● 見えてきた上越市の課題 ● ● ●

#### ①自家用車等での避難をどう考えるか？

今回は、津波発生の影響で道路が渋滞しました。誰もが歩けるわけじゃないという状況もあります。半径100mを想定した地域防災も再検討すべきと考えます。

#### ②孤立集落への対応はどうするか？

当地は雪の問題もあります。道路や電気、水などが寸断されたらどうするか？

#### ③防災よりも「減災」を意識した体制づくり

災害は日時を選ばない。を教訓に、被害を最小限にとどめるための政策や、マンパワー不足を補う最先端技術の導入が必要と考えます。

### ◆宮城県女川町の危機管理に学ぶ

昨年秋に災害対策特別委員会で、女川町へ視察に行ったばかりでした。東北大震災では震度6弱。14.8mもの津波がこの町を襲い、約1万人のまちで死者は574人。誰かの家族、友人などが失われたこの苦難を経て、わずか8年での復興。

主要産業は漁業。だからこそ、あえてさえぎる堤防は造らず「海と共存する」選択をした女川町。まち全体が高上げされ、漁場、商業地、公共施設、そして住宅と、いつでも高台へ逃げられる構造となっています。人口や産業の違いもありますが、上越市もその危機意識は学ぶべきと感じます。



すぐに逃げられるよう、工夫されたまち。



震災遺構は風化の過程で感ずることが大切とのこと。

臨時議会（令和6年1月26日）にて、この度の地震被害の災害復旧費等が提案されました。



三 どう補うか？  
町内会や地域、公共交通、農地保全など、人不足と高齢化で難儀になることが増えていくと考える。今後は、行政の柔軟で包括的な政策や規制緩和が必要。

二 どう稼ぐか？  
一点集中が財産のフル活用か？その仕組みづくりは急務。1つの自治体だけでは生き残れない時代。広域連携は必至。

一 どう維持するか？  
広い広い上越市。道路、橋、上下水道などのライフライン、生活基盤をどう維持していくか？市民の理解と官民協働が重要。

県内2位の面積！  
972.62Km

令和6年、宮崎ともが考える  
上越市3つのポイント

A、災害時は市民も観光客も関係なく、避難所誘導を行うため、提案の平時のアナウンス等は考えていない。防災と観光の部局、観光施設管理者も含め、今後はそういう視点も検討していく必要があると考える。

質問5  
平時において、観光客などの土地勘の無い人への防災アナウンスなどが必要と考えるが市の考えはどうか？

A、これまで660件の使用があり、民間使用が多い。市でも現代にあつた活用方法を検討したことがあるが、実現には至らなかった。最近SNSでの活用が好評である。

質問4  
誕生から十年以上経つ、上越市PRマスコット「けんけんず」。その活用は出ていますか？

ずっと取り組んでまいります！

毎年、保守系女性議員の会では、県知事予算要望を行っています。今年も宮崎ともこは「新潟県における若年女性流出」の課題に對し要望をさせていただきました。



☆上越市の現状  
20歳～29歳の女性は人口の約3%。その要因は、教育と職業の選択肢の少なさ。県もその点では取り組んでいます。

☆県に望むこと

若者の県外流出の課題分析の必要性と、県内市区町村が行う、若年女性が住みたくなるまちづくり事業を、県がアシストすること。

①女性が理系の学部や職業を選べる選択肢を増やしてほしい。

②若い女性が生活しやすい環境や地域コミュニティの創造を応援してほしい。

③若年女性が住みたくなる地域をモデル地区とし、その効果を県内に波及させてほしい。

（参考）上越・妙高エリアはこんなところ？

\*居住者の愛着や住み続けたいと思う意識が低い。（湯沢・魚沼エリアや佐渡エリアは高い）

\*謙信や桜、酒など魅力が散漫。自然や四季の魅力があることから、住みやすさが連想される。（2019年7月実施/新潟のイメージ・魅力等に関するアンケート調査より）

魅力等に関するアンケート調査より）